

大分市立長浜小学校 学力向上プラン1 (8月)

取組番号②

学校教育目標	はつらつとして、伸びる子、強い子、優しい子の育成
育成を目指す資質・能力	自分の考えをもち、伝え合うことでさらに考えを深める力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・各学年の単元末テスト正答率60%以下は、1年生国算ともに2%、2年生国算ともに0%、3年生国算ともに0%、4年生国算1.9%、算7.4%、5年生国算6.8%、算10.5%、6年生国算ともに0%であった。教科でいうと算数に課題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 県学力調査、全国学力調査の結果から、全体的には高い正答率であったが、個別にみると、学力の定着に個人差が見受けられる。また、問題文と選択肢の関連の読み取り等、問題文を正しく解釈できていないための誤答があった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期の振り返りから、授業中、自分の考えをノートに書くことができた児童90%、自分の考えを進んで発表(友達に伝える)している児童77%、友達と話し合うことでよりよい考えをもつことができた児童89%であった。自分の考えをもつても、それを友達や学級全体に伝えないままの児童がいる。多くの児童が自分の考えをもつことができているのに対し、それを伝えたり発表したりする児童が減ることに課題がある。しかし友達と話すことの意義は感じている様子が伺える。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート「自分の考えを伝え合う場を設定し、考えを深める授業展開を1日1回以上行っている」85%であった。考えをもち、伝え合う場を設定をした授業展開を行うことを意識してきた。知識・理解など基礎的な学力は定着してきているが、「自分の考えを進んで発表(友達に伝える)している」など、発展的な思考・判断・表現の定着にはまだ至っていない。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○教職員アンケート「家庭学習の習慣化を図っている」100% ○教職員アンケート「学習規律を守らせて、授業に取り組んでいる」100% 考えをもち、伝え合う場を設定をした授業を展開するには、学習規律を守らせることが必要不可欠であることが明らかであるため、月末に学習規律アンケートを実施して、教職員の共通理解のもと日々の授業を行っている。	

学力に関する達成指標

- 自分の考えを広げたり深めたりする授業を1日1回以上する。
- 単元末テストの正答率の向上に向け、正答率60%以下の児童を5%以下にする。
- すすんで本を読んでいる児童90%以上にする。(年間図書貸し出し冊数 低学年:100冊 中学年:70冊 高学年:55冊)

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (テーマ) 確かな学力の定着・向上を図る学習指導と考えの交流の充実 (重点) ①授業中の自己選択・自己決定の場の確保 ②考え・討論する授業の構築 ③問題解決を支えるタブレット端末の効果的な活用	
	〈取組内容〉 1時間の授業の中に、目的や意図を明確にしたペア・グループ等の対話の場の設定を行う。	〈家庭・地域の取組内容〉 ○家庭学習の習慣化 ○小中合同で先手あいさつ・無言掃除・無言移動の取組
	〈取組指標〉 ○発表や考えの交流ができない原因を探り、具体的な手立てを講じる。 ・考えに自信がない・・・じっくり考える時間の確保と学習意欲を高める工夫 ・発表や交流が苦手・・・発表のさせ方の工夫 ○交流のさせ方の工夫をする。 ○安心して自分の考えを伝えられる雰囲気づくりに努める。 ○考えを発表したり伝えたりすることの楽しさや満足感を感じられるようにする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○学習の手引きをもとに、毎日、子どもへの宿題の声掛けをする。 ○先手あいさつの励行をする。
	〈検証指標〉 ○学校評価アンケート「自分の考えを進んで発表(友達に伝える)している」と回答する児童80%以上にする。 ○学校評価アンケート「友達と話し合うことでよりよい考えをもつことができる」と回答する児童90%以上にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「家庭学習時間の習慣が付いている」と回答する保護者80%以上にする。
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○学年ごとに、学期末の「学力向上アンケート」をもとに、児童の実態と課題を明確にし、次学期のめあてを決める。 ○必要に応じて、課後等に個別指導を行う。		